

令和元年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）進捗状況報告

（令和 2 年 3 月）

報告者氏名・所属	水上 丈実・教職大学院旭川校
研究プロジェクトの名称	道徳と総合のアクティブ・ラーニングの授業づくりの浸透 —道北地方の卒業生へのフォローアップを目的に—
プロジェクト担当者 (氏名・所属・職) ※代表者に●を付すこと	●水上 丈実・教職大学院旭川校・教授 藤川 聡・教職大学院旭川校・教授
研究プロジェクトの概要等（期間全体）	
<p>1. 概要</p> <p>本プロジェクトは、教員養成機能における北海道の拠点的作用を果たし北海道の教壇に立っているたくさんの本学の卒業生の日々の実践に生かしてもらうため、フォローアップの一環として、アクティブ・ラーニングの授業づくりについての理論の研究・啓発を行うとともに、道北各地の優れた実践を紹介するための実践資料集を作成し道北の小中学校 400 校に配付する。特に、特別の教科となった道徳及びアクティブ・ラーニングの究極の姿となる探究的な学びが求められる「総合的な学習の時間」（以下、総合）の授業づくりについて、筆者らが教職大学院の授業で行っている理論を紹介するとともに、道北各地の優れた授業実践を集め、現在、教師に最も求められているアクティブ・ラーニングの授業力の向上に資することを目的とする。</p> <p>2. 本研究プロジェクトの研究計画</p> <p>現在、各学校においては、新学習指導要領の全面实施に向けて教育課題は山積している。一昨年度から小学校、本年度から中学校では特別の教科道徳が実施されていることや、小学校の外国語科・外国語活動、小中学校におけるプログラミング教育の実施などについて来年度から全面实施する体制を整えなければならない。そのためには、新学習指導要領に対応した教育課程編成が急務である。特に、各学校にはコンピテンシーベースで教育課程を編成するとはどうすべきなのかについて新学習指導要領の趣旨を深く理解することが求められると同時に、どのような教育課程を編成すべきかについて、その説明責任を問われている。</p> <p>こうした中で、本プロジェクトでは、教職大学院旭川校の授業開発分野の授業「学びとカリキュラム」「教科教育の実践と課題」「指導と評価の実践的展開」「総合的な学習の時間を創る」「授業づくりの実際」「道徳教育の諸理論と授業づくり」「教材開発・教材研究の方法と実践」「授業研究の理論と実際」の中で教示しているアクティブ・ラーニングについての考え方を整理し理論化する。そして、道北の小中学校と連携し、その理論に基づいて様々な授業実践を分析し、それらをまとめたものを実践集として道北地方の小中学校に配付することでフォローアップの一助としたい。</p> <p>そこで、1 年次（令和元年度）は、総合と道徳のアクティブ・ラーニングの授業づくりの理論化を行うとともに、道北地方の小中学校と連携し、実践の提供が得られる連携校を決定したい。筆者は、北海道教育委員会の学校力向上総合実践事業のアドバイザーや授業力改善推進事業の研究協力者を務め、過去 5 年間で 100 校近くの小中学校を訪問している。また、教職大学院旭川校の約 100 名の修了生が学校現場で活躍している。そうしたつながりを生かし、連携校・実践校を決め、協働して実践研究を進める。</p>	

道徳については、それぞれの学校で、これまで課題とされてきた「心情主義的道徳」や「読み取り道徳」からの脱却を目指して工夫した授業が展開されている。しかしながら、内容項目のおさえが甘かったり、教科書の教材分析の仕方が不十分だったりしている実践も多く見られるため、今なお課題も山積している。そこで、アクティブ・ラーニングの授業づくりに欠かせない「この教材では内容項目をどこまで理解させるのか」という授業設計の在り方にも踏み込んでいきたい。そして、道徳科の授業も、目標と指導と評価の一体化を目指すことが肝要であることを啓発していきたい。

総合においては、アクティブ・ラーニングの究極の姿である探究を目指す必要がある。そのためには、児童生徒が確かな課題意識を持ち、自ら見通しを持ち、調査分析を行い、まとめ表現することで、概念的知識を獲得させることが求められる。そのような単元構成の基本原則を教師自らが明確に持てるような支援体制を整えたい。

2年次（令和2年度）は、理論に基づく実践を累積し、道北地方の小学校の実践を整理・分析し、実践集にまとめたい。実践集には、実際の授業を録画しDVDも添付したい。

3年次（令和3年度）は、理論に基づく実践を累積し、道北地方の中学校の実践を整理・分析し、実践集にまとめるとともに、優れた授業をDVDにまとめたい。

本プロジェクトでは、筆者らが教職大学院において授業開発分野の授業で教示しているアクティブ・ラーニングの考え方を理論化するとともに、道北地方で教師として活躍する本学の卒業生や本教職大学院の修了生のフォローアップに資する優れた実践を紹介していきたい。

本プロジェクトは、旭川校教職大学院の授業開発分野担当教員2名で行う。研究の役割分担は以下の表の通りである。

表1 本プロジェクトの研究分担

	氏名	分担
研究代表	水上 丈実（教授）	研究計画立案・理論構築（道徳）・連携校との調整 実践（道徳）のまとめ分析
研究分担	藤川 聡（教授）	理論構築（総合）、実践のまとめ分析（総合）
連携校 (道徳は依頼済) (総合は依頼予定)	<上川管内> 旭川日章小 ^⑤ , 旭川向陵小 ^⑤ , 旭川永山南小 ^⑤ , 旭川新町小 ^⑤ , 和寒小 ^⑤ , 名寄小 ^⑤ , 旭川明星中 ^⑤ , 旭川緑が丘中 ^⑤ , 旭川地区 生活科・総合的な学習研究連盟 ^⑤ , 旭川東五条小 ^⑤ , 士別上士 別小 ^⑤ , 富良野樹海中 ^⑤ , 幌加内中 ^⑤ , 附属旭川小 ^⑤ ^⑥ , 附属 旭川中 ^⑤ <留萌管内> 留萌潮静小 ^⑤ , 留萌緑丘小 ^⑤ , 留萌中 ^⑤ <宗谷管内> 稚内南小 ^⑤ , 礼文小 ^⑤ <オホーツク管内> 網走小 ^⑤ , 滝上中 ^⑤ , 西興部中 ^⑤ <釧路管内> 鶴居下幌呂小 ^⑤ <日高管内> 新冠中 ^⑤ <十勝管内> 大樹小 ^⑤ <根室管内> 別海中央小 ^⑤	

3. 本研究の着想に至った経緯など

筆者は、上でも述べたように北海道教育委員会の各種研究指定校に招かれ授業参観、授業への助言、講演を行うことが多い。そこでは、アクティブ・ラーニングの授業づくりについて学校一丸となって取り組んではいるものの、効果的な実践には至らない状況が見受けられる。その要因の一つに、急激な教育改革の中で、やらなければならないことが多すぎることがあげられる。具体的には、特別の教科道徳の実践、外国語科の授業づくり、プログラミング教育の実施、その他、新学習指導要領の全面実施に伴う教育課程編成などが考えられる。加えて、働き方改革の実施が、それらに取り組む時間の捻出を困難にしている。その中で、じっくりと子どもと向き合い、この授業で「主体的とは、対話的とは、深い学びを実現するには」と考える研修の時間を確保するのもままならない状況にある。

中央教育審議会の審議の経過や答申を見てもコンピテンシーベースのアクティブ・ラーニングの授業づくりには多種多様な理論的背景があることが分かる。一つは、ある特定の文脈における要求に対して、個人の内的属性を結集して応答する「統合的・文脈的アプローチ」による授業づくりである。二つ目は、能力をいくつかの要素に分割したうえで、特定の職務を表すコンピテンシー・モデルを組み立てる「要素的・脱文脈的アプローチ」に基づいた授業づくりである。また、三つ目には、まだコンテンツベースから脱却できない授業づくりも残っている。こうした流れは、中教審のワーキンググループの審議の中では論議されているものの、学校現場には下りてきていないのが現状である。

そこで、本学の卒業生や本教職大学院の修了生のフォローアップ、ひいては道北地方の教壇に立つ教師の資質向上に資するべく「道徳と総合のアクティブ・ラーニングの授業づくり」についての理論と質の高い授業実践の浸透を目的としたい。

幸いにも、旭川校教職大学院の修了生は100名を超え、道北の学校現場ですでに管理職になっている者、指導主事として指導的な立場で活躍している者、各学校で主幹教諭・教務主任・研修部長などのミドルリーダーとして活躍している者がおり、連携を図りやすい状況にある。その利点を生かして、更に、修了院生のネットワークも活用させてもらいながら、このプロジェクトを充実・発展させていきたい。なお、北海道教育委員会や旭川市教育委員会にも周知し、後援をいただきながら、プロジェクト研究を推進していく。

アクティブ・ラーニングに関する理論や実践が掲載されている書籍・文献は多数発刊されているが、自校の指導生徒の実態や自らの授業力にあったものは少ない。道北の学校現場に焦点を当てることで、活用できる価値のある実践集となると考えている。

進捗度	1	←番号を記入 1.順調に進んでいる 2.ほぼ順調に進んでいる 3.やや遅れ気味 4.遅れ気味
-----	---	---

(進捗度が3若しくは4の場合、問題点等の理由を記入願います。)
 予定した内容を全て順調に実施しているから

研究実績の概要（当該年度）

1. **全道のアクティブ・ラーニングの授業改善のための研究会や道徳科公開研究会への参加とアクティブ・ラーニングの授業改善や道徳科の授業づくりの実態把握**
 - ・道徳科の授業づくりなどに関わる研修会については、道教委や学校から招聘されて行った講演が延べ18回(研究成果の講評実績を参照, 研究成果として各研究会で資料配付), 助言が4回(口頭), そして, 自主参加した研究会が5回あり, それらを基に, 授業づくりの実態把握を行った。
 - ・どの学校もアクティブ・ラーニングの授業づくりを実践しようとチームで取り組んでいる。小学校においては, 道徳的心情を追求するものばかりでなく, その時の行為を問題にし, その根拠を問うことで, 価値理解に迫る新しい授業づくりが多くなってきた。また, 中学校の道徳授業実践では, 担任に道徳科の授業を任せるのではなく, 学年団でのローテーション道徳の累積化が図られるとともに, 生徒の道徳性の実態把握を観察シートに集約するなどして, 指導と評価の一体化を目指す学校が多くなってきた。
2. **継続的な研究への支援体制の構築**
 - ・鶴居村立下幌呂小学校, 滝上町立滝上中学校, 富良野市立樹海中学校などについては, 研究会での授業研究や研究内容の指導や実態把握に留まらず, 年度当初からメールを使って交流することによって, 筆者の理論も取り入れていただけることが多くなった。
 - ・今後は, 道徳科の授業づくりを支える内容項目(価値)分析や多様な授業づくりを支える教材研究の在り方が重要になってくると考えられるので, 筆者の考え方をさらに啓発していきたい。
 - ・道内の小中学校を訪問していると, 小学校の複式校における道徳科の学年別指導について, 質問されることが多々あった。道徳科の複式指導の在り方についても今後, 研究を深めたい。

3. 「特別の教科 道徳」授業実践集の発刊

- ・1年次（令和元年度）は、小学校10校，中学校6校の実践を掲載した。どの実践も児童生徒の道徳性の実態把握を基に，教材の扱い方を研究した優れた実践ばかりであった。また，道徳科の授業づくりの方法をいくつかに類型化した指導過程を紹介している。道北の小中学校に配付することにより，これらの授業実践や類型化した指導過程を参考にさせていただきながら，各学校において質の高い道徳科の授業が実践されることを期待したい。

今後の研究プロジェクトの推進計画

2年次（令和2年度）は，総合の道北地方の小・中学校の実践を整理・分析し，実践集にまとめたい。また，実際の授業を録画し，北海道教育大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）旭川キャンパス授業開発研究室ホームページに掲載していきたい。

3年次（令和3年度）は，道徳科と総合の理論に基づく実践を累積し，道北地方の小・中学校の実践を整理・分析し，実践集にまとめるとともに，優れた授業をDVDにまとめたい。

本プロジェクトでは，筆者らが教職大学院において授業開発分野の授業で教示しているアクティブ・ラーニングの考え方を理論化するとともに，道北地方で教師として活躍する本学の卒業生や本教職大学院の修了生のフォローアップに資する優れた実践を紹介していきたい。

教育現場や地域で活用可能な成果等

- ・実践集に掲載した小中学校の道徳科の授業実践は，日々の授業の成果であり，他の小中学校においても実践可能である。指導案や学習シート，そして，実際の板書も掲載されており，道徳科の授業づくりに造詣の深くない現職教員にも，実践が可能になっている。
- ・授業実践集を各校に配付するだけでなく，メール等で道徳科の授業づくりについて，問合せをできるようにするとともに，研究協力校のシステムを構築し，年間を通して関わっていくことができるようにした。
- ・小中学校が取り組むべき新しい教育課題の一つである道徳科の授業づくりについて，学校体制で取り組んでいる16校の実践事例を紹介することで，それぞれの学校の道徳科の授業の質的向上に寄与したと考える。

研究成果の公表実績（当該年度）

【著書】

1. ◎林泰成（上越教育大学），貝塚茂樹（武蔵野大学），柳沼良太（岐阜大学大学院），水上丈実，他18名，『平成31年版中学道徳教科書「とびだそう未来へ」』，教育出版，平成31年3月
2. ◎林泰成（上越教育大学），柳沼良太（岐阜大学大学院），水上丈実，他17名，『令和2年度版小学道徳教科書「はばたこう明日へ」』，教育出版，令和2年3月

【学術論文】

1. ◎姫野完治・水上丈実・梅本宏之・橋本忠和「コンピテンシーベースのカリキュラム・マネジメントを中核とした教職大学院の授業開発」北海道教育大学大学院高度教職実践専攻（教職大学院）研究紀要，第10号，71-81頁，令和2年2月
2. 水上丈実「道徳教育と家庭における親の役割について」，教育と人格，第5号，令和2年3月北海道人格教育協議会研究紀要 29-30頁

【学会発表、シンポジウム、セミナー、演奏会、展覧会、競技会、普及啓発イベント等】

1. 北海道教育庁留萌教育局ほっかいどう学力向上推進事業授業改善等支援事業『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善』令和元年5月16日 留萌市立潮静小学校 約100名
2. 旭川市立末広小学校校内研修会『「特別の教科 道徳」の授業づくりと評価』令和元年5月28日と6月18日 旭川市立末広小学校 約60名

3. 鷹栖町教育委員会:指導改善プロジェクト『「特別の教科 道徳」の授業づくりと評価』 令和元年 6 月 13 日 鷹栖町立北野小学校 約 60 名
4. 北海道教育庁上川教育局道徳教育推進事業『「特別の教科 道徳」の授業づくりと評価』 幌加内町立幌加内中学校 約 40 名
5. 上川教育研修センター:道徳教育研修講座『児童生徒の道徳性を高める道徳授業の在り方』 令和元年 7 月 30 日と 8 月 30 日 上川教育研修センター 約 80 名
6. 上川教育研修センター:学校力向上対策研修講座『今日的な教育課題を回る学校力向上対策-新学習指導要領の実現に向けたカリキュラム・マネジメント-』 令和元年 8 月 8 日 上川教育研修センター 約 30 名
7. 北海道教育庁留萌教育局ほっかいどう学力向上推進事業授業改善等支援事業『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善 P A R T 2』 令和元年 9 月 12 日 留萌市立緑丘小学校 約 80 名
8. 北海道道徳教育推進事業指定校・鶴居村教育研究所指定校事業『「特別の教科 道徳」の授業づくりをどうしたらよいか～内容項目分析と教材研究に着目して～』 令和元年 7 月 18 日と 9 月 20 日 鶴居村立下幌呂小学校 約 100 名
9. 北海道教育庁日高教育局ほっかいどう学力向上推進事業授業改善等支援事業『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善』 令和元年 9 月 26 日 新冠町立新冠小学校 約 70 名
10. 北海道教育庁日高教育局ほっかいどう学力向上推進事業授業改善等支援事業『新しい学習評価を踏まえた授業改善』 令和元年 10 月 25 日 日高町立富川中学校公開研究会 約 70 名
11. 北海道道徳教育推進事業指定校『「特別の教科 道徳」の授業づくりをどうしたらよいか～内容項目分析と教材研究に着目して～』 令和元年 10 月 31 日 新冠町立新冠中学校 約 70 名
12. 北海道教育庁留萌教育局ほっかいどう学力向上推進事業授業改善等支援事業『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善 P A R T 3』 令和元年 11 月 20 日 留萌市立潮静小学校公開研究会 約 80 名
13. 北海道道徳教育推進事業指定校『「特別の教科 道徳」の授業づくりと評価』 富良野市立樹海中学校公開研究会 約 120 名
14. 士別市教育委員会:小中学校における新学習指導要領の実施に向けた研修会『主体的・対話的で深い学びによる道徳の授業づくり』 令和 2 年 1 月 14 日 士別市文化センター 約 70 名
15. 北海道教育庁石狩教育局:石狩管内女性教員を対象としたミドルリーダー養成研修『ミドルリーダーに求められるマネジメントの基本, やる気を高めるコーチング』 令和 2 年 25 日 北海道庁 約 50 名

【テキスト、報告書、研修資料等】

1. 『「特別の教科 道徳」授業実践集-北海道内の小中学校の道徳授業実践事例の紹介を中心に-』 令和2年3月31日 420部 道北の小中学校420校に配付

添付資料

1. 北海道道徳教育推進事業指定校・鶴居村教育研究所指定校事業『「特別の教科 道徳」の授業づくりをどうしたらよいか～内容項目分析と教材研究に着目して～』 令和元年 9 月 20 日 鶴居村立下幌呂小学校 講演プレゼン 筆者作成
2. 『「特別の教科 道徳」授業実践集-北海道内の小中学校の道徳授業実践事例の紹介を中心に-』 令和2年3月31日 筆者作成

ダウンロード可能なドキュメント	上記資料など道徳と総合のアクティブ・ラーニングの授業づくりに関する資料を下記URLに掲載(4月掲載予定)
関連URL	北海道教育大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻(教職大学院)旭川キャンパス授業開発研究室 https://jugyo-asahi-hue.jimdofree.com/
問い合わせ先	氏名： 水上 丈実 電話： 0166-59-1426 E-mail： mizukami.takemi@a.hokkyodai.ac.jp